

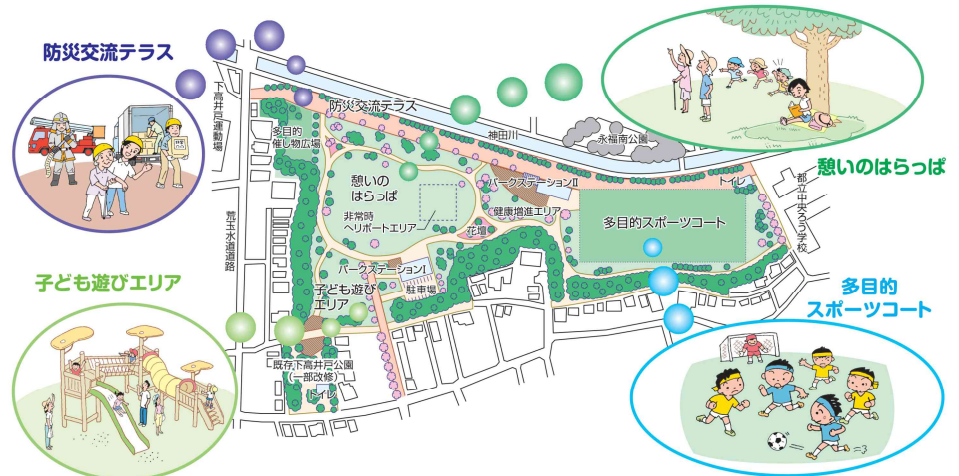
東京電力総合グランド跡地の公園計画が決まりました！

旧東京電力総合グランドを含む、敷地約4.8haを都市計画下高井戸公園として整備するための基本計画を策定しました。計画では、災害時に多くの避難者を受け入れられるよう、オープンスペースを確保するとともに、緊急車両や救援物資輸送車両の搬入路を整備するとともに非常時ヘリポートエリアを配置することとしました。また、みどり・景観に配慮し、健康増進エリアや交流・レクリエーションの場を整備していきます。今後、具体的な設計を行い、平成29年度には、一部開園を予定しています。

杉並区は、平成24年7月27日、東京電力総合グランド跡地を取得しました。敷地面積は、約4.3haで隣接する既存の区立下高井戸公園等と合わせて、約4.8haの都市計画公園となります。平成25年度に、公募区民によるワークショップを開催するなど公園の機能や使い勝手について、地域の声を聞きながら検討を行ってきました。旧東京電力総合グランドは、敷地も広く、地域住民からも様々な活用が期待されていますが、中でも、防災面に期待を寄せる声が多くありました。

同公園が完成すると区内で最も大きな区立公園となります。いつ起きるかわからない首都直下型地震に備えるためにも、このような広いスペースをいざという時のために整備する必要があります。こうしたことから、公園の基本理念を「大空のもと みんなのびのび 安全安心な広場～多世代が憩える地域交流拠点の形成～」としました。

敷地北側の神田川に沿って防災交流テラスを配置します。ここでは、地域の方々が交流する場として活用できる空間とします。一方災害時には緊急車両や救援物資輸送車両の搬入路と



して活用します。そのほか、避難面積を約2.5ha確保し、その中には非常時ヘリポートエリアを配置します。現在の万年堀も撤去し、幅10m～15mの防火樹林帯を設けることにしました。

防災機能の充実とともに、サッカーやラグビーができる多目的スポーツコートや、約1kmと500mのジョギングコース、あわせて、神田川と一体感を持った水とみどりの憩いのスペースも整備します。今後は、具体的な設計を行い、平成29年度には、西側部分の開園を予定しています。